

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成29年 12月

1 東京都中央卸売市場(平成29年1~11月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は181.8万tで、前年比3%増、金額は5,074億円で前年比4%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は21.1万tで、前年比2%増、金額は536億円で前年比6%減となった。
(金額の内訳は、野菜451億円、果実85億円。前年同期比で野菜7%減、果実2%増、平年同期比で野菜9%増、果実2%増)
→金額が【増加】した品目(前年対比)：はくさい(116%)、にら(106%)、幸水(109%)、豊水(112%)
→金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(75%)、キャベツ類(79%)、きゅうり(81%)、みず菜(85%)
- ③ 茨城県の1~11月計の青果物入荷量は前年比104%(シェア11.6%)、取扱金額は同109%(シェア10.6%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1~11月計)		
	1~11月計	年間計	年間比	1~11月計	年間計	年間比	千葉	北海道	青森
数量	H29	1,817,537		210,686	←シェア(11.6%)		10.7%	11.7%	5.8%
	H28	1,769,627	1,956,079	205,842	229,650	89.6	11.3%	11.3%	5.9%
	(前年比)	103		102	シェア(11.6%)				
	平年値※	1,823,120	2,013,667	90.5	202,540	226,294	89.5		
	(平年比)	100			104	シェア(11.1%)			
金額	H29	507,354		53,573	←シェア(10.6%)		7.8%	6.2%	5.8%
	H28	527,953	586,489	56,741	61,743	91.9	7.9%	6.6%	6.2%
	(前年比)	96		94	シェア(10.7%)				
	平年値※	491,099	528,369	91.6	49,110	53,617	91.6		
	(平年比)	103			109	シェア(10.0%)			

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成24~28年の5ヵ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》

平成28年実績
(1~12月計)

茨城県：金額シェア(10.5%)、数量シェア(11.7%)
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(11.5%)
北海道：金額シェア(6.4%)、数量シェア(11.2%)

2 東京都中央卸売市場(平成29年11月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約2万6千トン(94%)、単価は233円(103%)、金額は約62億円(97%)

果実類の入荷量は約284トン(156%)、単価は761円(93%)、金額は約2.2億円(144%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成24~28年同月の5ヵ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	はくさい	12,714	96	115	121	81	71	129	125	1,029,725	68	147
	レタス	2,509	70	66	65	357	151	223	214	895,928	105	147
	ピーマン	809	87	80	88	614	113	183	173	496,478	99	147
	れんこん	907	119	98	98	463	84	113	112	419,548	100	110
	野菜類計	26,459	94	100	98	233	103	140	120	6,163,862	97	140
果実	いちご類	56	142	80	91	1,820	97	120	115	102,137	137	96
	果実類計	284	156	101	100	761	93	105	110	215,790	144	106

(野菜)

- はくさい 茨城県産はくさいは、10月下旬の曇雨天、低温により肥大が抑制され、小玉化が見られたが、作付面積は前年より増加し、10月までは豊作基調であったことから、入荷量は前年比96%、平年比115%。市場全体では、作付面積増加や、8,9月に遅れた分が増量したことから長野からの入荷量が多く(前年比296%)、平年比121%となった。単価は、高騰した前年を下回ったが平年を大きく上回り、前年比71%、平年比129%、金額は前年比68%、平年比147%であった。
- レタス 茨城県産レタスは、10月下旬の台風被害による収量減少から、前年比70%、平年比66%と少なかった。市場全体でも、栃木(前年比81%)、静岡(同42%)等の近在産地が同様に被害を受けたことから、平年比65%と少なかった。数量不足により10月下旬から11月にかけて相場は高騰し、茨城県産は前年比151%、平年比223%と非常に高く、金額は前年比105%、平年比147%であった。
- ピーマン 茨城県産ピーマンは、10月下旬以降の曇雨天、低温により肥大、着色が抑制気味であり、入荷量は前年比87%、平年比80%と少なかった。市場全体でも、高知(前年比79%)が11月下旬から端境となったことから、平年比88%と少なかった。数量減少により、11月から相場は高値基調となり、茨城県産は前年比113%、平年比183%と高く、金額は前年比99%、平年比147%であった。
- れんこん 茨城県産れんこんは、定植後の低温や8月の連続した曇雨天による日照不足の影響から、作柄自体は平年を下回るが、不良であった前年を上回り、入荷量は前年比119%、平年比98%、市場全体でも平年比98%であった。単価は、高騰した前年を下回るものの平年と比べ入荷量が少ないことから、前年比84%、平年比113%と平年を上回り、金額は前年比100%、平年比110%であった。

(果実類)

- いちご類 茨城県産いちごは、定植後の10月中旬の低温や、下旬の曇雨天による日照不足の影響から、生育が遅れ気味ではあるものの、入荷量は、作柄不良の前年より多く、前年比142%、平年比80%、市場全体では、10月の天候の影響により、同様に福岡(前年比49%)の入荷が遅れたことから平年比91%であった。単価は、11月下旬に向けて徐々に上げ基調となり、茨城県産は前年比97%、平年比120%、金額は、前年比137%、平年比96%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出